

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492400021	事業の開始年月日	平成18年9月1日
		指定年月日	平成18年9月1日
法人名	株式会社 へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあん小和田」		
所在地	(〒253-0012) 神奈川県茅ヶ崎市小和田3-3-25		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年12月16日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご入居様、お一人お一人に合わせた支援方法を見出し、生活の中に生きがいを持って頂けるよう、安らぎの空間をお客様とスタッフで作って行きます。

ご入居様様の認知症の進行やADLの状態変化に応じ、カンファレンスや研修を行い介護技術の向上を図ることで安心して生活できる環境作りに努めています。

体調の変化に早期発見、対応が出来る様に日々、主治医・医療連携看護師・薬剤師等との連携を密にしております。

ご家族様との関わりも継続して持って頂けるように定期的な報告書の発送、電話にて相談やご意見を頂いております。

重介護においては、介護用品等、環境面でも重度化に対応できるよう「看取りケア」の体制を整えております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年1月19日	評価機関 評価決定日	令和3年4月10日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所概要】 この事業所はJR東海道線辻堂駅北口からバスで4分程、または辻堂駅西口から徒歩15分程の所に立地している。建物は木造2階建てで1階には同一法人のデイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所があり、2階が当事業所である。1階のデイサービスとは避難訓練や行事を連携して行っていたが現在、新型コロナ感染防止の為に中止している。利用者の行き来も禁止しており、職員もデイサービスと下駄箱を分けるなど接触を制限している。</p> <p>【事業所の行動指針】 行動指針は事業所開設時に職員が作り上げたもので、ミーティング時には法人理念と共に唱和してケアの実践に努めている。内容は「お客様に尊敬の念をもって接します」を柱に「一人ひとりの個性を尊重し、今お持ちの力を十分発揮できるよう、お手伝いします」など3項目である。歩行が難しくなったなど、利用者の状態に変化があった際は、職員間で話し合い、リハビリの実施や車椅子導入などその方に合った個別の対応をしている。またその方の生活リズムを尊重して朝食を遅くするなどの対応をしている。</p> <p>【計画に沿った研修の実施】 行事や研修など年度計画が立てられている。ほぼ全職員が参加する月例ミーティング時に認知症研修や排泄介助研修など研修の計画に沿って実施している。参加出来なかった職員には研修資料を渡し、内容確認後に研修報告書を提出するようになっている。</p> <p>【利用者の外出支援】 毎月の外出表があり、利用者の外出状況を一覧にして外出したことが目で見えるようにしている。現在、新型コロナ禍で日常的な外出は、近隣の散歩や玄関前での日光浴が多くなっている。職員は「短い時間でも外に出よう」と考え、9月に茅ヶ崎のサザンビーチへのドライブを企画し、法人から車、運転者を手配してもらい出かけた。利用者は「久しぶりだ」「海だ」などと喜ばれ、景色を見て歌を歌われた方もあった。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん小和田」
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の行動指針、法人の理念を共に玄関や事業所内に掲示し、ミーティングの際に唱和するなどして共有している。職員は「家族との絆を大切にします」等の行動指針を実践に繋げている。	職員は法人理念の他、事業所独自の行動指針を意識して働いている。「お客様に尊敬の念をもって接します」を柱に3項目がある。歩行が難しくなったなど、利用者の状態に変化があった際は、職員間で話し合い、リハビリの実施や車椅子導入などその方に合った個別の対応をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事などに参加できるよう地域住民の一人として参加意識を持っているがコロナ禍もあり思うような交流はできていない。	本宿自治会に加入し、地震が発生したと想定した「安否確認訓練」に参加した。新型コロナ禍で敬老会などの行事は中止となり参加できなかった。ボランティアや学童保育などとの交流も休止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所へ来所される方、電話相談や問い合わせに懇切丁寧に対応し、認知症の理解の一端を担っていると自負している。今年には自治会の班長を引き受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価受審後の運営推進会議にて、ご家族アンケートと共に議題に取り上げている。	運営推進会議は2カ月毎の開催で4月から書面開催になっている。自治会副会長、行政担当者など運営推進会議委員に事業所概況などを送付して意見や感想を聞いている。委員から消毒液についての情報提供や、感染対策を徹底して下さいなどの意見が寄せられている。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>利用者状況・待機者情報など毎月報告し、運営推進会議・インターネット情報等を通して連携を密にとっている。</p>	<p>茅ヶ崎市高齢福祉介護担当職員とは毎月、事業所の利用状況などをメールで送信して連携している。市からの最新新型コロナウイルス感染状況や市地域密着部会からの情報はFAXやメールで確認している。</p>	
---	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待に対するコンプライアンスルールを掲示し、実践している。 身体拘束に対する研修実施やマニュアル整備などを通してスタッフへ周知している。	身体拘束虐待予防についての研修を年2回実施している。身体拘束適正化の委員会を実施しており、その内容をミーティング時に職員に周知させている。昼間は玄関を開放している。玄関のセンサー設備で利用者の外出が分かり、センサーが鳴ると、冬場なら、職員は利用者に寒いので部屋に戻ってもらうような声のかけ方をし、寒くても外に出たいようであれば一緒に外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回、身体拘束虐待予防について内部研修計画を立案し、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一回、上記同様。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、十分な説明を行い、疑問・不安等を解消している。また、契約書改定、重要事項説明書改正の際には、ご家族に連絡を取り、説明・同意を得ている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナ禍の為、家族会の開催が見送られている為、個別にご家族の要望等に迅速に応えている。</p>	<p>12月までは事務所で5分以内の面会を実施していたが、年明けから対面の面会を中止している。家族の要望を受け、ビデオ通話を実施している。家族から職員はねぎらいの言葉をもたらしている。月1回、個別の日常生活の様子、医療関連の連絡や事業所の今後の予定などを「へいあん小和田便り」として家族に送付している。</p>	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度のスタッフ面談、随時の管理者会議を通じて、職員の声を引き出し運営に反映させている。	月1回のミーティングで意見を聞いている。個別の面談もあり、職員が不安に思う事、苦手なケア（例：移乗・排泄ケア）を確認し、不安の解消となるよう現場で助言や安全な方法を伝えている。イベント食は職員が考えて実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様。 半年に一度のスタッフ面談を通じて、業務評価を行い、左記の内容についてスタッフ評価・意識づけ等を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画を作成し、内部研修等を通じて教育を実施。また、新人スタッフに対するOJTにおいては日誌やチェックシートを活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	茅ヶ崎市地域密着部会に所属しインターネットにて研修等を通し左記の取組を行っている。法人内においてはミーティングを通じた交流・情報交換・業務改善会議を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規ご利用者様についてはアセスメントや事前にご利用している施設を訪問する事でADL・困りごとや不安等の状態把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に、管理者と計画作成がインテークにより支援内容を見極め相談・情報共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主体のケア方針にて計画書を作成し支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族との絆を大切にする」を行動指針に盛り込んでいる通り電話やテレビ電話・情報報告書にて家族との関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居により、それまでの人間関係が途切れない様に配慮し居室には、なじみの物を置いてもらうなどして症状の悪化を防ぐような対応している。	新型コロナ禍で馴染みの人の訪問は中止している。以前は訪問があれば居室にて、お茶を出すなどして、もてなしていた。またドライブで自宅を見に行ったり、家族との外食もしていたが、現在は新型コロナ感染防止で控えてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握する事で、孤立気味な方へは、声掛けを行いスタッフが間に入ることで孤立せず関わりを持てるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣でお会いした時や、来所された際には、歓談させていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	左記内容にてアセスメントやモニタリングを行いカンファレンスやミーティングにて情報の共有を行っている。	日々の関わりの中で意向を確認している。意向の把握が難しい方は表情や動きなどで推し量っている。また過去の記録を見たり、元気だったころの様子を知っている職員から聞くなどしている。把握した内容はモニタリング表などに記録し、担当者会議時に職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやモニタリングにより左記についての情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族へ現状報告を行い、今後の希望を事前聴取し担当スタッフによるモニタリング記録と合わせケアプラン作成を行っている。	本人、家族、職員、訪問医、看護師などの意見を反映した介護計画である。通常、目標の見直しは、長期1年、短期6か月で実施している。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>左記内容については毎日の個別サービス日誌に記載し取り組んでいる。 細かな情報共有は申し送りノートに記載しスタッフ間で共有している。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループの社内資源も活用し、左記の内容に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に近隣への散歩・外気浴等を実施し左記に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームとして協力連携病院を確保しているが、これにとらわれず、病院受診はご本人やご家族の要望に応じて対応している。	現在は事業所の協力医を全員が主治医にしている。家族対応で6か月毎に整形外科を受診する方がいる。受診の結果を家族から聞き、往診医に報告し、職員は「個別申し送り」シートで共有している。往診医、看護師、歯科医などが定期的に訪れている	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人事業所内看護師・医療連携看護師との連携を図り、医療的な点でのケアと観察を実施している。 介護スタッフと情報の共有を図り、医療的観点からアドバイスを受けている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中も病院へ出向き、担当医師・看護師より病状の把握や退院支援に対応している。</p> <p>また、入院加療において必要な生活情報・身体情報を家族の同意を得て行っている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、これに基づき対応している。 看護師による看取り研修も実施している。	入居時に家族に看取りについて説明し、「看取り介護の同意書」を渡している。看取りの時期となった際に同意書に家族から署名をもらう。今年度は1名の看取りをした。看取り研修は年1回行っており、その他、看取りがある際に急遽実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時研修において、救急対応・心肺蘇生等のスキルが身に付くよう研修のメニューに取り入れている。 また、毎月のミーティングの際にCPR訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基本的には、年2回避難訓練等を実施している。 法人全体の取組として施設防火チェックを年4回実施。	11月に地震と火災の避難訓練を夜間想定で利用者と職員の参加で実施した。次回は昼間の火災訓練を3月末日までに行う予定である。災害に備えてカセットコンロ・ボンベの他、食品類は水、乾パン、おでん、サバイバルフーズなど利用者の3日分を備蓄している。備蓄品の管理は法人が行っている。	災害に備えての食品類は利用者と職員分を合わせて3日以上 の備蓄が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスルールを挙げ、左記内容をスタッフに周知している。	年1回、接遇研修を実施している。また日々の中で、言葉かけなど気になることを議題にミーティングをして対応を考えている。利用者と接する際は自分の立場に置き換えて行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの実践について「傾聴する事」「待つ事」を旨とし、「後追いケア」を行い左記内容が実践できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしながら臨機応変な対応を心掛けている。食事の時間もその方に合わせた時間で提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を一緒に選んだり身だしなみを整えたりしている。 隔月の理美容の訪問により散髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日などのイベント日には、その方のお好きな食べ物をお出し喜んで頂き、お正月などの特別な日にはイベント食を用意し楽しんで頂いている。 日々、温かく手作りの食事を提供できるよう努めている。	食事は専門業者の献立付きの食材を利用して職員が調理している。利用者はもやしのひげ根取りやお茶の葉のパック詰めに参加している。誕生日会は利用者の好きなものを提供し、イベント食は寿司など出前を取って楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食ごとに個別に栄養・水分摂取量を記録し、これを観察し健康管理に配慮している。嚥下状態により食事の形態を変え誤嚥に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態に応じた口腔ケアを実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助。紙パンツが必要となった方でも習慣的に出来るだけ、トイレに座っていただき排泄ができるようにケアしている。	全利用者の排泄チェック表がある。利用者の動きや、チェック表から判断してトイレ誘導をしている。昼間は出来るだけトイレで排泄してもらい、夜間は本人の状態に合わせて睡眠重視でパット交換するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝体操を行い、乳酸菌飲料・牛乳を提供。その他個別に適宜プルーン・食物繊維剤などを提供。個別に排便状況を観察しやむを得ない場合は主治医と相談し、緩下剤の処方・調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や生活リズムに合わせて入浴時間を調整している。入浴を強要せず気持ち良く安心して入浴できるよう声掛け・誘導方法等を個別に創意工夫している。	利用者は、体力に合わせて入浴している。活動的な方は2日に1回程、そうではない方は3日に1回程のペースであり、毎日入浴する方も居る。リフト浴の設備があり、全員浴槽に入り、入浴を楽しんでいる。季節には、ゆず湯、菖蒲湯を楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転なく夜間に良眠できるように支援している。日中は、体調に考慮し痛みや疲れが出やすい方にはベッドで休んで頂き、夜間眠れない方は、リビングで一緒に過ごしていただく等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方の説明書をファイルし服薬情報をスタッフ間で共有。また変薬の際は申し送りノートに記載し情報を共有。状態変化についても個別サービス記録に記載し、多職種と共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記内容に取り組んだケアプランの作成に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため日常的な外出は近隣の散歩や施設玄関前での外気浴のみだが、9月に茅ヶ崎のサザンビーチまでドライブに出掛けた。	外出表シートがあり、玄関前まで出る、散歩など利用者の外出の状況が分かるように記録している。春は桜の枝を飾って花見の雰囲気を楽しんでもらった。車椅子を車に乗せてサザンビーチに行き、利用者は海を見て喜ばれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談しながら一部のお客様において能力や意向を勘案し実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左記については、積極的に実施している。 テレビ電話も活用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した季節の飾り物を展示したり、音楽を流したりして心地よい空間を作っている。 照明器具が切れた時は、早期に新しい物と交換している。	リビングには利用者の写真と似顔絵があり、明るく広々としている。3か所にソファを配置しており、自由に過ごすことができる。温湿度に配慮し、換気に気を配り、窓を少し開けている。玄関には利用者が今年の目標を書いた絵馬を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左記のような居場所作りを行ったことで、ソファでは気の合った利用者同士でくつろぐ姿やお一人でもくつろぐ姿が見られている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を居室に置いていただき、極力制約なく自由に使って頂いている。	居室入り口には表札があり、エアコンとクローゼットが設置されている。仏壇、タンス、テレビ、植木、CD、写真、本などを持ち込んでいる。居室で過ごす時間が長い方は加湿器を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目立つように「トイレ」「浴室」等掲示し、自らの役割を演出しやすいように配慮している。		

